

大学 期待する入学者が来ない

指定校推薦なのに 学力が低い!?

指定校推薦は多くの私立大学が実施しており、入学者に占める割合も低くはない。編集部が入試関連情報をウェブサイトで公開している10大学を調べた結果、募集人員に占める指定校推薦枠の割合は、5%〜25%を占めていた。

定員割れのリスクを軽減したい大学側から見れば、指定校推薦制度はかつては「高校のお墨つき」を得た生徒を「早期に」より確実に確保できる入試方式だった。しかし、ここ最近は問題視している大学も多い。

大学側が感じている問題の一つは、「高校のお墨つき」にもかかわらず、学力が担保されていない学生がいることだ。「一般入試入学者との学力差が学内で問題に

なっている」(九州の理系私大)。「出席率はおおむねよいが、学力はバラバラ。絶対評価が導入されてからは評定平均値も信用できなくなった」(首都圏の理系私大)。

極端な例では、「グローバル系学科に入学したある学生は、評定基準は満たしていたが、be動詞すら正しく理解していなかった」(関東の文系私大)という話もある。一般入試での合格が難しい生徒の受け皿として使われているのではないかと指摘が、複数の大学から聞かれた。

評定基準のリスト化が ミスマッチの原因に?

問題は生徒の学力だけではない。一部の高校では推薦枠のある大学名、評定基準、選考内容などをリスト化して閲覧可能な場所に

置いたり、生徒に配布したりしている。この方法が学部・学科のミスマッチにつながっていると指摘がある。「生徒はカタログショッピングのように評定基準の数値を比較し、自分の成績で出願できる大学を決めているのではないか。学科で学ぶ内容をきちんと理解していないとミスマッチが起きやすい。例えば工学系でも機械工学と電気電子工学とは内容がまったく異なる」(首都圏の総合私大)。

大学側も評定基準や人数を見直すなどしているが、これまで築いた高校との信頼関係もあり、指定校の取り消しは難しい。思いきって見直しをした場合は、高校からのクレームを覚悟しなければならぬ。

「面接でほとんど話せないような生徒でも、評定基準を満たしていれば不合格にはできない。指定

指定校推薦の問題点

2 問題提起

近年、指定校推薦制度の活用に関心を感じている大学も少なくない。大学と高校の双方に事情を聞き解決すべき課題を探った。

一般入試を前提に 指導する高校が多数

一方で今の高校は指定校推薦をどう捉えているのか。

ヒアリングの結果、進学校に限らず、高校教員は基本的に一般入試を前提とした進路指導をしており、「絶対にこの大学のこの学部に進学したい」という生徒でない限り、安易に指定校推薦を活用することを勧めないという意見が大半を占めた。

「学力や資質がありながら本番で実力を発揮できにくい生徒を救う、という意味ではメリットがある。ただ本校の場合、自力で学力試験を突破しようという生徒が多いため、応募してくる生徒はほほ「1年次から指定校推薦を狙っている生徒もいるが、教員としては

一般入試でチャレンジしてほしいと考えている。自力で受験を乗り越えた経験は、その後の就職活動などにも生かされるからだ」(首都圏私立普通科高校)。

生徒のニーズにあった指定校枠が少ないという意見もある。「80名の生徒に対して合計240近い指定校推薦枠があるが、生徒に人気の看護医療系は2大学しかなく、まったく利用しない枠も多い」(首都圏私立普通科女子高校)。

リスクヘッジのために 推薦を希望する生徒も

一般入試で合格できそうもない生徒に指定校推薦を勧めているのではないかと指摘について、高校側は否定している。「ただし、指定校推薦を希望する生徒は安全策を取りたがる傾向がある。リス

文/編集部

高校 一般優先で指定校は後回し

指定校推薦を 有効に活用するには 求める学生像を 正確に伝える

受験競争率が高かった時代、指定校推薦は大学、高校の双方にメリットがあった。現在も「この大学に本当に入学したいという生徒は、指定校推薦を選んで来る」(関東の私大)、「地方の指定校からは目的意識の高い生徒が入学している」(首都圏の私大)など、評価する声もある。しかし、自学の強みや求める学生像、教育内容が生徒や保護者、高校教員に正しく伝わっていない場合、指定校枠を設けても期待するような学生が入学してこないことも考えられる。

地方公立普通科高校のある教員は言う。「求める学生像を具体的に示したうえで、面接などでそのレベルに達していないと判断すれば、不合格にすればよい。ただし、不合格の理由はきちんと説明してほしい。『あの大学は条件をしっかりと出しているし、選抜基準も甘くない』という認識を高校にも生徒本人にも持たせなければならぬだろう。そうでないと指定校推薦という制度自体がダメになってしまう」。



校の枠をなくした結果、クレームにつながったこともある。厄介といえば厄介な入試方式だが、数の確保につながっているから悩ましい」(北海道の私大)。